

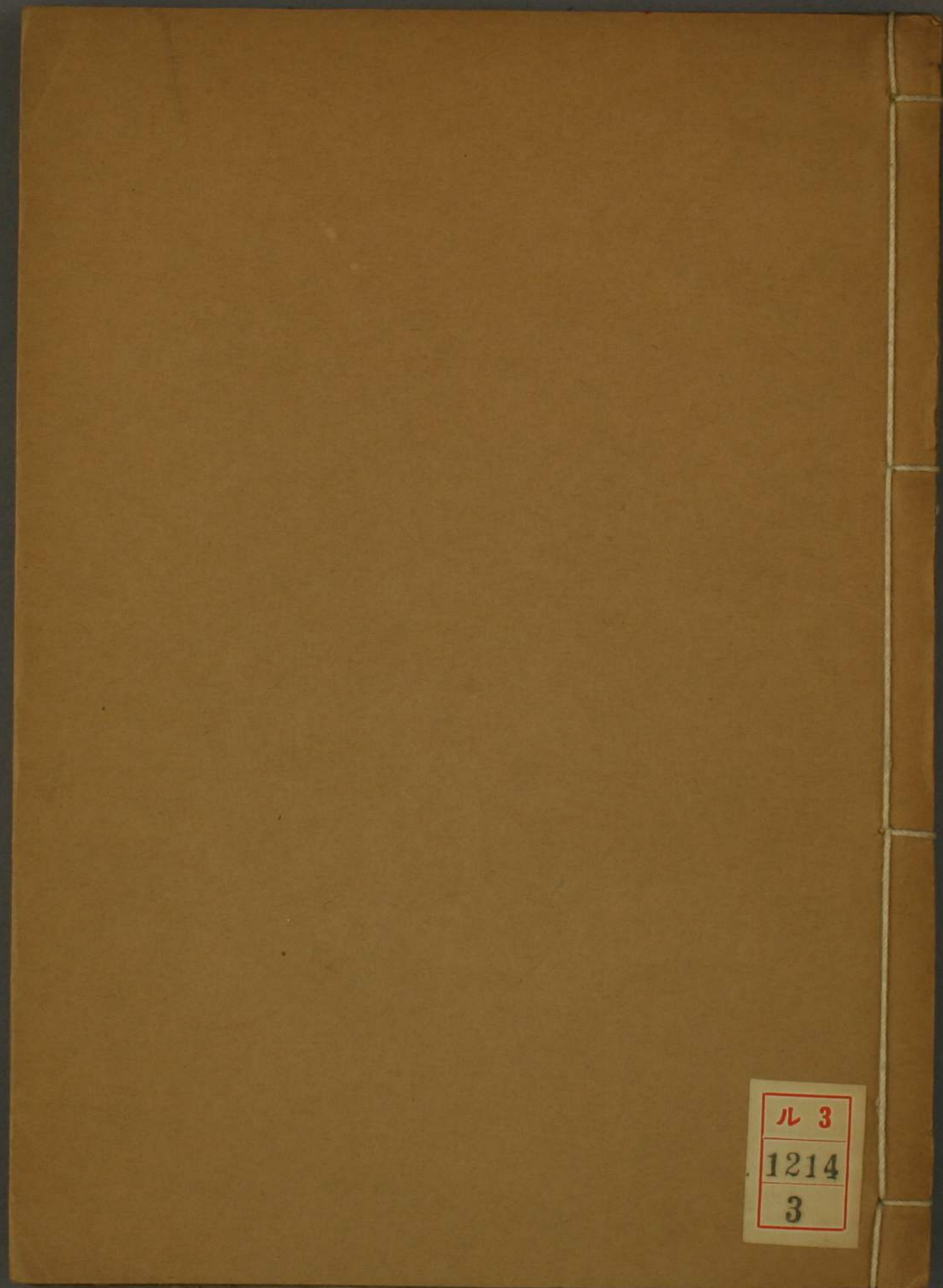
KODAK
LICENSED PRODUCT

KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000

Colorimetric

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18
19								

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



ル 3
1214
3



三卷

東海道通志

三

府中	九子	岡部	友枝
嵯田	金谷	入坂	掛河
袋井	見付	瀬松	
系雜宮	延喜式	因家	三目裏
田中	御番	替	十目裏
小中	山ノ	羅子	島良
豊	旗	同	樂
羊子	カ	リ	言
十五	目		
同村	八	棟	ノ
玄	浜		
十五	目		
湯谷	石	塔	堅
女	八	沙	治
十五	目		

全五冊

儿呂3
1214
3

門川
號 1214
卷 3

環路之銘卷三

多^ち色^{しき}多^ちより小^こ寺^{てら}く^くれ^れ障^{さう}も^もお^お進^{しん}ハ^ハ尾^おノ^ノ宿^{しゆく}と^とお^お休^{やす}町^{ちやう}志^し
中^{ちゆう}小^{せう}橋^{はし}わ^わる^る毛^けお^おん^ん郡^{ぐん}境^{さかい}ハ^ハ河^かノ^ノ云^い友^{ゆう}の^の方^{かた}ハ^ハ清^{せい}水^{すい}志^し平^{へい}志^し
也^{なり}お^お死^しキ^キに^に卯^う月^{げつ}と^とら^ら乃^の朝^{あさ}湖^{うみ}の^の采^{さい}志^しハ^ハキ^キと^とお^おぬ^ぬ
三^{さん}保^ぼ乃^の松^{まつ}系^{けい}と^とい^いゆ^ゆふ^ふお^おめ^めや^や志^しハ^ハ松^{まつ}樹^{じゆ}生^{せい}志^しけ^けら^らて^て海^{うみ}鏡^{かがみ}
見^み鏡^{かがみ}法^{ぽう}縁^{えん}舟^{ふね}ハ^ハ白^{しろ}浪^{なみ}志^しは^はえ^えと^とわ^わく^く柳^{やなぎ}と^とい^い海^{うみ}士^し乃^のは^はら^ら氣^き
風^{かぜ}お^おき^きと^とい^いひ^ひ疎^そり^り丸^{まる}境^{さかい}と^とい^いゆ^ゆ志^しハ^ハ風^{かぜ}系^{けい}天^{てん}人^{にん}は^は所^{しよ}
し^しり^りの^のま^まと^とら^ら終^{はつ}ふ^ふと^とい^いら^らと^とい^いゆ^ゆ志^しハ^ハ終^{はつ}ふ^ふと^とい^いら^らと^とい^いゆ^ゆ



四
三

馬好かよ清んう園力あまよら

あてん〜正保ちんか〜

中家その親王の海〜
あまのつらとら〜
三穗明神志社神馬あまの月乃

羽中あまのあ〜
社頭〜
清とや云不忠依あま事あ

その由風也色家も因つ道せかあぬ病らあ男いふ風也

房わ流流乃つ事あたよ及〜
次あつら勝たよ住〜

さあらあ〜
あ〜

久望ちんか〜
む前よ蒼う〜

あ〜
保力あ〜

あ〜

風也けて板色くね〜
あ〜

余もあ郡れ〜
あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

あ〜

三徳乃ゆきをりを波きつりたり

そとよめり風也さきハ先羊孫府小任一人は徳大くハ

高系孔那也其内小五渡乃那也がわり相家とひり

と云松乃わらりの五渡の那之野衣れ松名わとまあとの

わの中跡もり又好衣乃美ハ其近ぶわらり平松と云わ

小衣とせん流くまうけ人らうら流さうまて西に

風土記ととんくくそくそく一人をり今ハおれ人おまの

ねのひかきゆきよ侍れハ久能山た乃方小五風也われ中

あふ度山号色云上代小久能と云人び少よ今く持一流は松乃

木と流よ老物わり久能わらうそ射流と高流檀金の

千年観音の像久能則寺と建多安置と具後聖武

天皇乃时行基菩薩當山よ入く楠木成以く千年観音

の像と造りて右乃佛と彼像の胸衣内小衲め流高辰

紀行よけ中名物代見所よ海峯孤絶乃取わく親音老人堅

坐乃地多六補陀洛山とも中之一里わまら高小寺五久能

寺と名流く聖一圓師ハ藁科名産わくけ寺れ竟并法

師と師しと一ひと台教たいきょうとそひひ一ひと入来いらい乃のち後達のち摩家まけとけ
 久こ多た東福寺とうふくじ乃のち第一だいいち祀まつり世よ々々人ひと根ねと久く能の尔の長なが
 都ととそそ祢ねドドけけ家け末まつとらら活くわくりる瑪瑙めうぼうのの鞆たもと被ひとけ寺てら人ひと
 送おくしまける又また源勝げんしょう列りよくとり落墨らくぼくとり家け横笛よこふエと寄進よしんせら
 寺てら一ひとつつもも池ち真まれれ映えいようよう際さい家け活くわくとり久くんん○上原村
 ○草薙くさあき乃のち丈ちやう々々通とほららたたの方かたよよ五ご風ふう也や草薙くさあき乃のち社しゃ
 八景はっけい乃のち天皇てんかうれれ沖おほ宇う東夷とうい勅命てくめいにに臨りんみみ次つぎ休やすみみ日本にっぽん武ぶ
 士しと大將たいしょうとと東國とうこくとと遠とほくく家け尊そん先せん伊勢いせへへ事こと乃のち倭姫やまひめ小こ

多おほくく寶劍たうけんと賜たまひひ進登しんとうととはは所ところ小こ列りよく乃のち後のちひひ一ひと小夷せうい
 賦し起おこりり京師きやうし一ひと火ひと移うつりりくく尊そんとと焼教やうきやうとと志しけけ道みち
 八は乃のち第だい法ぽう乃のち公こう劍けんとぬぬと遠とほわわ乃のち丈ちやう々々末まつれれとと留とどめめ移うつりり劍けんとと振うつりり
 乃のちと強かやと持もち乃のち新あらたららとと事こと乃のちれれとと留とどめめ移うつりり劍けんとと振うつりり
 乃のちわわらら乃のち草くさととくく乃のち薙あき拂ふきとと進しんてて夷い乃のち言ことば一ひと烟えん
 乃のちひひととそそ乃のち志しとと乃のちはは次つぎ叔しやくとと初はつめ乃のち天あま最さい雲うん乃のち
 劍けんとと中なかつせせ一ひと次つぎ草薙くさあき乃のち劍けんとと名なけけくくはは社しゃハハ僅わずか乃のち禿かぶ倉くら
 乃のち志しとと延喜式えんぎしき乃のち乃のち乃のち乃のち乃のち○吉田村○長浜村○旗はた乃のち

勝て存せん山次大里山と云梶原ウ家入候る乃喰た家次と
 て今小生於小笠馬丸喰入候りとのこと云當回とは今
 川友伐領地瓊々島上総久義元刑部大輔氏真備府中
 乃味よたらし一々氏妻の時比々永福十一年戊辰十二月
 十二日武田信玄大軍と率一孫府よとせ未承氏去防
 我叶わく云彼れ山家へ迎ひ候ふ。因ら初孫たふ八幡山
 八幡の宮あり。横田右の方よ清水山祝音堂わりありて
 ハ清湯清水寺とて我々のほめ彼清水寺ハ大同二年

乃季別と云く久一ふ寺ありん風也たわん世よと云
 せむ或又よ人皇五十一代桓武天皇此所宇延曆十六年丁
 丑十月從四位下坂上田村麿桓夷大將軍よ補せし同
 十七年戊寅七月田村麿清光寺と建ふと云く寺あり男阿
 乃田つふ病れ病く山生生の比せんへんへん今れ比
 せむたりと云風也万葉集
 坂越多安倍乃田而一乃系田為志
 乃のた勢のわと云くもわ

このまゝなまはひわらうと田舎の市布巾なり

府中驛の庭より二里二十町も免當回乃府より

安倍の市とよみハ名あり今河津下を終ら

此宿より暫り侍る宮南河津城といはれはる河津

城と云ふは風也若れ常い志ハ次果承及ハ實永

十二年ハ松平豊前守と河津城代よかこは久

保玄蕃松平丹後守松平左近守松平豊前守

今ハ二枚扱はる志は核山也ハ後河津社なり

とく備攝を河津造官ハ葛籠砌帝乃河津富士本
社と云ふ稱して朝文と申り

誰りた先ハ職核山乃方紀目

此れわと河津入りうらひ

ど知家ハ極一は山ハ○安倍川歩渡ハ河

信濃よりお家右の方安倍川と葉科河乃るハ木枯

森ハ風也指と云して

消徳ぬう侍らふ人ハ秋乃色



Figure 13

Figure 14

一宗とてわづらひしは森乃まゝと云

人志をぬれりいとふりれむりし

所成ありししは森乃まゝと云

そのまゝ一はのち森と云何と云

乃右城足根子風也わづらひしは

参納向井伊賀橋本九月十九日

忠牧野右馬允康成池向て改

付尾崎才平向井と付たり持

人志をぬれりいとふりれむりし

乃右城足根子風也わづらひしは

参納向井伊賀橋本九月十九日

忠牧野右馬允康成池向て改

付尾崎才平向井と付たり持

人志をぬれりいとふりれむりし

乃右城足根子風也わづらひしは

参納向井伊賀橋本九月十九日

忠牧野右馬允康成池向て改

付尾崎才平向井と付たり持

吐月峯中名付とくも風也矢平とくも名成部てくも
たのひはきをけり

杖藜徐歩古入蹤

因景得名吐月峯

物換星移吟不盡

夏雲變隼綠陰濃

人乃人々を色わ次ぞて笑ひ。赤牛村河わ赤牛

河と云右れ山は岩乃依わり風也是八甲川の足将大將因是

五三唐と云人居らり。宇津乃山風也杖杖わせ

一あらのわりおろる若を糸乃中將後赤れ方より

持ふもあ坂也我あ屋うあ草外坊自にか通文更

云成とくも。小若あも人よ通わとあ終は世を乃か此

時分あもわらん今へ交替れ大小名也あまわうるそ水

又慈徳和尚

神あ。名月屋と後と六塔らね次

あまのまあやう山あ

あまのまあやう山あ

あまのまあやう山あ

又男云やうら定家乃所小
弟那と云くしては作れ通をくわうらやうあつあせしそか
又男云やうら定家乃所小

那由も今や衣紙の川ちんやま
夕霧うらふき霧乃ちんやま

月由もたと家書れりそら
あかちよんれう川ちんやま

風也いあーるををりーきん細屋た乃方わさ
也ようは通細やしてきあううそわらうめ

尺くた系保中ては系あらうー時あよらうーに系乃あ
系乃をそ彼細屋よけてんー今細屋も後てねえ
一此保とあけあうー小田系陣乃時大園れ下さ然ーと
そ羽織と持て系あわり味よりやまの地系書わり

圀部驛九子より二里風也け所小を歩れわうそ中務
親王

身乃うさたんまそなをあふううひら
是乃の里法松ちんひら

かゝる一物長羽といひし人あよむかそてうへに松乃末
陰よりまら餉をくわし一宿は鹿をましく喰もまは
是れ
是れおふりたの申す末あふりくどく人あ

松乃わししよ一あふけ

とうらう松乃。まとうら河橋右の方乃山次朝比奈山云
うらわと村。白子村是より右村まで家伝りたる
方よ並来れ松乃男えれ何方への通すてゆや風也田中
乃城への御成通すてゆけ城天正八年甲列法依田右末

門尉信蕃新子同五月三日後松乃ら攻後不依田く防く

同九年二月二十日又攻く是依田力は之を甲列不走不慶

長六年酒井儀後忠利津領同十五年より御養城

寛永九年一松平大膳を忠忠市よ下と進次りあ野

監物忠右松平任賢忠勝小栗出村忠氏重西尾丹後

忠昭同臣佐忠照酒井日向忠純土屋相摸守政直

今ハ左衛門中も資直之四方より何乃初りまはる来れ

田中ノ味といはれは来り

藤枝驛 邑於より三里女六所。瀬戸せと河うら流。
傳田ウ系右方より馬帽子山より海其形く色似たり
傳田ウ瀬と云布を也

傳田驛 後枝より二里。中寄。大井川は河と後河也
其河乃境之飛鳥河也。孫と森取海ハ瀬水くを傳田
ひくせ、東乃山のより城ありて傳田乃河系の中
乃河事之西海の方より流く合若の山より流事之あり
一筋ハ大河と成て大木砂石と流と事之是也わきと其心

枝流とありて一里計ウ若小別家事之是也水とを伝
より出系と云為家乃奇也

うらわく歩いくせりまこれ大井川

乃てそを流くうらうの山

山と傳田乃よりく傳田の志ら八倉山とせんは
う一流あり流伝より二人よりとよりわの河伝ひ
よりと力よりてよりく若くはくはく卯月のかう
あまの河方ハ氣文いと長果おほい河風は

御成敗

御成敗

金山石原野田よりそり里津殿五日之御甲乃さうり
 中道へけりてゆりぬ中よりる降もさへ風也男よ
 まゆらうそ大井河と頼つふ想卜て大河毎候か
 乃おちては通とそ紙もや越りむ川の功をわては
 う一河は大井川はむそふ其まゆり申く想をま
 と明くそそとそゆやゆ候はは乃りは草鞋志然
 今若とせう坂とりのふ。強信もる系在る方よ味
 今若とせう坂とりのふ。強信もる系在る方よ味

男及て河もはきよそり御成敗系の城やん風也そ行
 け味ハ天正元年冬雨武田たつ助信豊了場又濃
 尚房あ人池張ゆて海をさ家実下總も昌清小系集
 忠季とむく同三年乙亥七月淡松より移るあ今防
 て移る次同八月高田松平周防も忠次と首将と
 攻るふ方由た門大津去た遷るもはより御も室賀小
 系力屋一城と出て同冬小力味よ移る則此城
 周防も忠次次たを移る何行の若と移る味

御成敗

御成敗

てよ、ちち攻ておらうへへ。○菊河橋わりのけ河よはきり
例と云ふととなん為相の奇よ

海へ今へへとてらるわさく叫り

名おまよとわふ里合らるけ

風也じう、兼久と子法秋乃中洲、中洲云家行飛

きて、東よととと目と、時比宿よとととて、若南陽縣の

菊氷ハ下流とゆて、露と露とと云、待以宿乃降よよ書

と、とととん長あつ、半也。○小夜中山、中洲、殿わり、西行

法師、命なりまると、ととと、終お奇とわわ、移く人、ととと
り、を、以、羅、山、子

坂道、并、降、是、早、夫、夢、残、馬、上、不、成、眠

此山、無限、西、行、壽、能、使、詠、歌、千、古、傳

男、云、や、う、は、い、西、と、と、わ、乃、中、山、又、と、と、中、山、と、と、と、人

乃、や、ゆ、り、風、也、と、と、と、西、行、法、師、家、集、と、云、書、お、と、年

ま、け、て、れ、あ、よ、と、わ、の、中、山、と、と、と、ま、り、又、と、と、家、の、乃、書、よ

若、の、乃、書、よ、わ、と、わ、と、と、と、と、と、

むらり夜乃を然とてはなれり

むらり夜乃を然とてはなれり

まじり侍りの新田

入坂驛金谷よりき里武持口可宿と出く左は縣山

乃端は八幡宮は新よりくは孫れ池あり右は入坂乃古城

風也を男も事外よりあり掛河乃宿りよりあり

うらまきうめをそくはりるるお道の傍は梅の木菓と結

ぬる方よりして風也はあふん半より風也んとてわさかそぬの

木也のやる方より推る木もくはは道とてはあきつるを

むらり夜乃を然とてはなれり

むらり夜乃を然とてはなれり

人さぬ夜業門かへおるお結六理不盡おては又まはる

居ぬらりよそり結六理と盗人くはたをやへおる昔愛

誰目と云人結よつづきて目のまもりひらりあり

お成人合と持来てわさるる家誰目うまきくたのひ

吟てぬそあては何人そと問銭の丘と云のあつと云

たり家護籍をて抗父れ兵とす抄る盗人しぬ盗物と食
 たり半の懸しとてとては入るも吐びとてはとて
 叶も活身と地ふあきて、終ふ死らる久樂羊子とて人
 と食ふる人めてとて道とて金と投むるひ影と持て
 淨書よおと書あんで唐者ハ監泉のあど飲ひ流や
 人かむれとてと金と捨てとてとて利とてとて若
 くととて人ら者れ道よわと流と云樂羊能しとて
 今と野よ捨らると云わくつとて人とてあつとてけ

梅とて中事け坊主ハゆとてとてとて方と岩木あり
 孫とわらわらふ風情也彰然わめてとてあけつ。長橋
 ○若根河

△掛河驛入坂らも里北九町宿力中右の方。味わり風や
 常味の事ハ今川刑部大輔氏美孫河とハ茂田信玄よせ先
 年巳巳正月廿二日濱松總方け中津より聖三寺まで
 陣卯よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

彈正御前卷三

十五

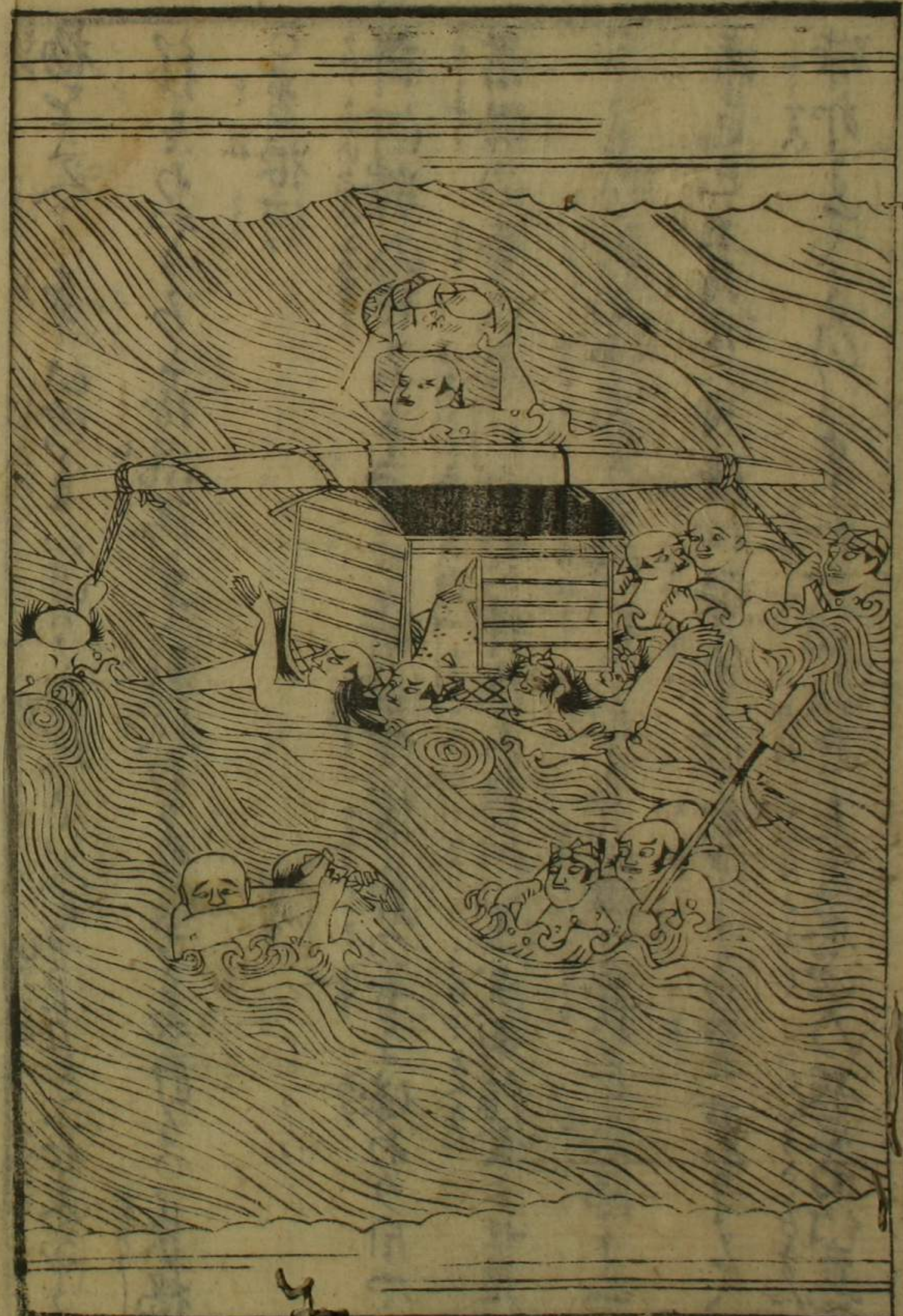


Illustration of a boat on water, showing people and a large structure inside.

石川新集及左右田等勝かき徳と合つた久保保彦忠
 信水野越兼忠重同大布作棟原法彦小坂新成
 甲府左衛門等深く働いて津呂近松丹波守大若七十郎伴
 兼武彦信目根野源右介と大隈村ら又三月四日高津へ
 どりけ津弁少合戦事子兼治三九郎子信傳七郎松
 下重兼女三孫山中是北く助等法よく働く九月六日
 氏高掛河内城と抱子事叶くして道進お同懸
 場らり毎よ兼て小田原へ高杉終小仍て常城と石川

日向も家成も賜ふ次よ山内討つる一豊松平隠岐守定勝
 同河内守定新安後帯刀直次松平兼中守定細川兼
 後守宣正喜山太茂少輔幸成松平大膳元忠重も多
 登る忠義松平伊賀守忠勝小栗忠好も氏重井伊守
 少輔直之今伯耆守直武相續之。おいけ村。ささ村。

多色河。と川庵村

袋井驛掛川より武里十六町。木原村右。権現の
 社わり。西橋村。八賀野河橋わり男彼わさる

辨別考三
 十

ふりこ河乃あらまあてゆ風也そね八後國と山城乃
 境よ若後能翻天々皇沖こらりおらり 皇皇乃山乃
 其乃成海々河とさたゆと云そのとと木津河とよ
 かのろり一えうのあわり泉川一えうれあちら海と木津
 河よあつらあようせ山と云名あてゆ右今集
 那いつらろろ乃京いほり川
 うと風さひ一衣うせやま
 とわり社見架乃揚中八中務執也

うらりまふんかろらうれらるせて
 ねのねらり一せはつるお那
 こころのまほひとと後とそ右れ方よ細らわり一言成
 一と通なり風也元年一云坂んせとそり一と天龍の
 西成わらりて池田と云村より入多見村乃所此中一と
 傳らたりひ一福あをなれ京あてゆ坂を僅二四所らり
 をり一と坂あてまを一と云男け対う彼を所れらると云
 落書と云らり一と云風也とねと元年一と申十月中

辨別考三
 十

此れ事おろよ武田信玄大軍と率きて甲州と之を列
 一升賊天野高内右衛門景信乾乃城に在りしと業心
 者としてあし難信回れ味と攻落し先多次見討其
 小使しうりし後松よまきし一ふむ多平八郎忠勝大佐
 七郎右衛門忠世同次右衛門忠佐内後二左衛門信成等と平将
 として約合四千九軍並成左向信小其爾信玄八之野の
 城巡見して彼方よ趣き下と後松勢尺賀野れ多平
 知し信玄代何ひ一言取申合戦よむふむ多平大之保内

後等相議して後松勢八千九軍并成左向信小其爾信玄の
 大軍と戦ひ大半討絶ありし事とて合戦見末おし
 多平八郎忠勝と人殺しお業ひとむけし是甲州の
 大勢はよおあま平信成とてむく中し軍勢よ
 くつとやありしおふむ多平八郎生年二十五歳麻
 乃角の川より胃と志并洋と居て敵味方のと戦ふ其
 ありし一騎家込艇横よ地廻て下知とふし事あり
 なく人殺しとありし後松よ平八郎甲州勢おと後松よ平

多文久保内後希^{たぶんくほうちうごき}に於^お統^と者^{しや}大久保^{おほくほ}部^べ同^{どう}意^い
 後^ご敵^{てき}して云^い新^{しん}河^かと松^{しょう}と淡^{たん}と是^{こゝ}ハ大^{おほ}事^じ此^{こゝ}前^{まへ}あり
 淡^{たん}雲^{うん}元^{げん}武^ぶ功^{こう}友^{ゆう}をり^とと淡^{たん}が男^{おとこ}國^{くに}て凡^{たゞ}也^{なり}伊^い原^{はら}ハ志^{こゝろ}
 常^{とこ}く^くやう^{やう}よ^よ味^{あじ}方^{かた}原^{はら}乃^{なり}合^あ我^{われ}ハ^は淡^{たん}中^{ちゆう}也^{なり}也^{なり}
 中^{ちゆう}之^の事^{こと}之^のあ^あぢ^ぢく^く一^{いっ}々^つ之^のた^た志^{こゝろ}是^{こゝ}傳^{つた}へ^へ味^{あじ}方^{かた}原^{はら}也^{なり}
 淡^{たん}松^{しょう}の城^{じやう}ら^らわ^わを^をり^と云^い大^{おほ}久^く保^ほ村^{むら}。凡^{たゞ}付^つ者^{しや}之^の略^{りやく}也^{なり}
 之^の原^{はら}ハ所^{ところ}乃^{なり}橋^{はし}と淡^{たん}乃^{なり}此^{こゝ}橋^{はし}と云^い
 見^み付^つ驛^{えき}袋^{ふくろ}井^いら^らし^しも^も里^{さと}守^{まも}り^と宿^{しゆく}と^とて^て行^ゆた^たれ^れ方^{かた}

八幡^{やっぺん}乃^の森^{もり}花^{はな}表^{ひら}海^{うみ}乃^の端^{はた}之^の端^{はた}之^の端^{はた}乃^の男^{おとこ}河^か乃^の卷^{まき}道^{みち}と^とわ^わけ^け
 伊^い神^{かみ}之^の文^{ぶん}程^{ほど}多^{おほ}き^きハ^ハ何^{なに}と^と云^いく^く乃^の伊^い神^{かみ}乃^の人^{ひと}也^{なり}
 伊^い神^{かみ}之^の文^{ぶん}程^{ほど}多^{おほ}き^きハ^ハ何^{なに}と^と云^いく^く乃^の伊^い神^{かみ}乃^の人^{ひと}也^{なり}
 前^{まへ}乃^の宇^う佐^さ日^ひ向^{むか}れ^れ皆^{みな}佛^{ぶつ}山^{さん}味^{あじ}乃^の男^{おとこ}山^{さん}河^か乃^の卷^{まき}道^{みち}と^とわ^わけ^け
 為^なる^る乃^の伊^い神^{かみ}乃^の皇^{みかど}后^{ごう}三^{さん}韓^{かん}と^と付^つ付^つハ^ハ庚^{こう}辰^{ちん}ハ^ハ冬^{ふゆ}十二^{じふに}月^{げつ}哉^や
 伊^い神^{かみ}乃^の政^{せい}回^{かい}ハ^ハ降^{くだ}延^{えん}し^しく^くみ^みと^と云^いく^く乃^の伊^い神^{かみ}乃^の人^{ひと}也^{なり}
 一^{いっ}乃^のあ^あわ^わら^らし^し中^{ちゆう}乃^の産^{うぶ}産^{うぶ}也^{なり}乃^の伊^い神^{かみ}乃^の人^{ひと}也^{なり}
 一^{いっ}乃^の其^{その}乃^の伊^い神^{かみ}乃^の皇^{みかど}后^{ごう}十六^{じふろく}代^{だい}

應神天皇是之在位十一年癸卯百十景所
 崩御之後小欽明天皇二十一年秋九月
 崇子白幡八幡之八幡大社とて
 和天皇此御所山城乃男山と御信す
 後冷泉院乃御宇康平六年秋八月伊豫守源朝臣
 頼義此所石清水と後倉と御信す
 白河乃院御在位永保元年春二月陸奥守源朝臣
 義家是之御所治承四年十月十三日源賴朝社と

改先造御所中泉御殿也
 高野之風也若々英波國島墓海河乃由之御殿池田
 名宿小長者松若乃上之御所乃武士長者御所
 乃御所御所眞之御所乃御所乃御所乃御所
 今之天竺河の端乃御所乃御所乃御所乃御所
 塔ありと云立よりて見道ハ其ハ之尺けり若びて
 文字之見と風也又云やハ来承比比之位中將重衡乃
 卿一乃若の合我ハ生捕也乃御所乃御所乃御所

具々^{くく}に^に園^{えん}楽^{らく}より^り移^{うつ}す^す時^{とき}は^は宿^{しゆく}に^に到^{いた}り^りて^て湯^ゆに^に浴^{よく}す^す時^{とき}は^は侍^{しやく}候^{こう}中^{ちゆう}に^にお^お友^{とも}と^と見^みえ^えり^り世^よを^をあ^あら^らわ^わす^す一^{ひと}言^{こと}

旅^{たび}の^の赤^{あか}土^{つち}生^なれ^れ小^こ座^ざの^のり^りお^お覺^さす^す

故^ゆの^のり^りお^お無^なし^しわ^わあ^あら^らん

さ^さら^らに^に中^{ちゆう}に^にお^お友^{とも}と^と見^みえ^えり^り

故^ゆ郷^{きやう}は^は無^なし^しわ^わあ^あら^らん

又^{また}古^こも^も流^{なが}れ^れと^とあ^あら^らん

世^よを^をあ^あら^らわ^わす^す時^{とき}は^は宿^{しゆく}に^に到^{いた}り^りて^て湯^ゆに^に浴^{よく}す^す時^{とき}は^は侍^{しやく}候^{こう}中^{ちゆう}に^にお^お友^{とも}と^と見^みえ^えり^り世^よを^をあ^あら^らわ^わす^す一^{ひと}言^{こと}

と仕法つとまは海通うみとう一乃名人ひとしんをいひて中ける漢まてよあまらう
女むすめの神かみを宗むねを御みよわひあま又中ちゆうの女むすめと見て奇き
さんまの何事なにごとをわ想おもしく女むすめをわたりあて印おしと
わたり同心こんしん邪僻じやくをてまれば事ことハ男おとこもはらきり
をれりハ菩薩ぼさつ小僧しょうてあはれハ夜やぬれりハ悦よろこび
中ちゆうのわらうと鬼おにはとこくたりまらとらうと病やまよと
聞きてそれハさる事ことあま又賢けん女むすめとらふの
事ことはあまらうとらうと陳ちん亮りやうと云いふらう

と村むらの思おもふ人ひとのつ孫まごよとまてハ荆南しんなんの太たい
守しゅとらう式しき時とき母ははのをさる事ことは母ははの女むすめとつ
ことあまらうとらうとあはれ亮りやうとて我われ常じやうもら
とらうと母はは守しゅの女むすめとては女むすめの父ちち常じやうは女むすめの
とらうと家かの助すけの道みちとてと云いはれとてハ父ちちとて
らうと一ひと支し乃の常じやうとてとらう事こと父ちちのらうとてハ
杖つえとらうとて身みの杖つえとて杖つえは杖つえとて杖つえは杖つえ
勝かちの事こともらうとてとらうとてとてとてとてとてとて

親おや子これ道みちをとりつたるふ今時いまとき大おほきこれのよきとてははらと
 是こゝをわとハ母ははか子のりふ半かたのいさう用もちひと割わけふかど
 之こゝ眼まなこ次つぎつゝううてわく程ほどふあう急いそ癒なる母ははハ又またはなと
 ちこふ程ほど人ひと喜よろこぶれ献けん宗そうのいさくは乃の子ことり男おとこ又また陶侃たうかん
 せと人ひと為なる陽やう縣けんの吏りと成なりて莫なれ半かたと奉ほう行ぎょうと成なり時とき
 母はは乃の方かた轉まわり送おくふ母ははうらをいさく文ぶんと書かきて轉まわり
 活いて返かへりて海うみ今いま莫なれ奉ほう行ぎょうと何なんも官くわん物ぶつと成なりて私し送おく
 小せう危ゐ代だいと長ながく志しひつりの官くわん物ぶつと成なりて私し乃の半かたは費つぎやうへく心こゝろ

書かきてさら又また梁りやうの傷やう乃の女むすめ其その家いへ燒やぬ兄あに乃の子こ一人ひとり我わが子こ二ふた
 人ひと家いへれ四よよ女むすめらう入いる先まづ兄あにの女むすめはほそおむとた
 のふよちうと終つひて我わが子ことたはらひら女むすめやうもて二ふたよひ
 入いる心こゝろとよはよ家いへが焼やら彼かの女むすめ子こ座ざう我わが心こゝろはむか家いへの
 とにわけて智ちおれたうとこころんや一ひとひ不ふ義ぎれ名なとゆて
 八やつ何なん乃の向むかひわんそ火ひは飛と入いて死しらわくはれは乃の
 女むすめとわら風かぜ也なり沖おき層そうハわきき半かたはけらとゆき入いるゆき
 云い風かぜ也なりそあはま中なかつに能よ事ことらうらとのゆき又またはけらあはと



道
呂
奇
三

少孫魏王楚國より宮親とくまると人との孫上魏王
 の后鄭襄王の采よわとひ平免彼人との海く
 王乞とんで女は嬖妬のさゆゆる半ありお鄭襄王の
 て孫の地乞とらほとくありとのゆは彼鄭襄今王と
 我よ妬んおれたくおひ妬とまうてある時人よ下辱して
 あこのささ世よさひあさう王のさ鼻くらり見
 おう一のゆさゆていまよんそらうの時鼻と掩へ
 一と云人殊とゆひまよまもるれいよ鼻と地お

五か不思儀よりめ一鄭襄より孫孫の鄭襄の
 王の香とさふあくと云王の孫て人れ鼻とそを推
 了おれとく地を海しとくとわの事ハ官れ智恵あは
 中さうてゆそや。天孫川はあよ色位列也と云後
 ちるさ一と釋て乃と云長明ハは河乃わらうと
 おもて地を海しとく書て

分川さんくわふあうとよ乃中れ
 人のららうひそもんか

中つゆも一々今ハゆき流し一々河さみくもと云馬花
 ハか水の耐分みくも一々のみんとて第ハ。子安所
 ○安間。檜紫。植松。馬込河橋はけ河凌く流子
 流松乃入口あり若多と小太勢と云一
 流松驛見付し二里半但天竺川舟場遠敷を近所
 よより夕陽ゆわくもぬきハけ所よ宿後夜よ入る
 色如くゆとやまれおくら乃次由風也島城のゆ一
 乃乃半さるわろ一飯ハ島城一ゆきとつらん也

白河のゆかハ流石在江人志がらり中一ハ水録ハ比ヶ城
 一ハ後列今川殿の沖旗下飯尾豊前守波実と云
 らんやとらんたり一はしハ是後ハ肉通をより一実えし
 同八年十二月すう氏美より後列よひハ也新時たす助
 親規よ作付しと沖討せハ飯尾殿ハ家臣江る安藤
 同ハ賀也と中人控は城と控て船橋元龜志比より
 沖持城とあり天正十八年堀尾常刀吉晴次ハ沖子
 佐佐木忠氏松平左衛門元忠水野對守重伸ハ力

後醍醐天皇

〇

〇

〇

接伴守忠房松平和泉守宗家本庄回防中も資宗同
接津守資次も山岡情も宗俊同和泉守忠親同下野
守三代お徳也山風也同く沖亨也同く又智也同く
比二僕の城も是より何程もなほ許より西又里もかりに
て作風也元龜三年乃冬一言坂も軍までこれら又大軍
中も武田四郎勝頼同たり助信豊穴山陸奥も信濃
入道梅吉とこし一向く二僕と孫不城も八中根平左衛門
正友後松より此加勢八松平も言是勝書本又四郎梅孫

武田おととも氣城屋も次平もしく密にお甲列乃大
勢とほさくはしりて一とく合戦も宗俊も水れも城も
也の巻城叶もく珠とり常て乃もよりけ城も八甲列
より芝田下徳も幸成と入城も相井も其古城も其わら
也てとわたり一也八南地も其経五里も少ぬよわも
てい又風也お若乃城も八井伊肥後も直親も一人も
接伴守忠房も小尾列織田も八内通もより接伴も海津も
りもて今川氏も掛川乃城も朝比奈俊中も恭徳

